

まだ岐阜の「じーじ」、
こんないいもの、
いとろろがあったんだ



「ふるさと」のよさを
再発見してほしい
岐阜県情報誌
「hitomi」

今年、創刊から5年目を迎えた県内の歴史、文化、人の魅力を紹介する季刊誌「hitomi」。年4回、季節ごとに5万部発行され、毎号完売となっている注目の情報誌です。さて、その創刊の経緯や、人気を集めている理由は何処に？

高くて**「本物」**は売れる

プロデュースしているのは、(株)アド・プロの上村孝成さん。きっかけは数年前。長野市にある「まちなみカントリープレス」が発刊している情報誌「KURA」との出会いでした。

そこには信州の四季の美しさ、文化やまちなみ、ひとの温かさ、豊富な農産物などが、美しい写真とともにふんだんに紹介されており、月刊誌で一冊780円という高価にもかかわらず「価値観をもつ大人」をターゲットに、地元で絶大な人気を集めているものでした。

岐阜でもこんな情報誌が作りたい――

しかし当時、情報誌の存在は、いわゆる「フリーペーパー」が全盛期。さらに詳しく知りたいならば、インターネットで検索。そんな欲しい情報にさほどお金のかからない中、780円とかなり高めの価格設定に、まわりからは「なぜ今、こんな高額な情報誌を」「時代錯誤も甚だし」などの厳しい声が大方を占めていました。しかし上村さんには、自信がありました。

この価格だからこそ伝えられる郷土のすばらしさが、岐阜にも絶対ある

そして、もうひとつ
岐阜に暮らすひとたちに

1,000人程だったこの地区で生まれ、育ちました。時を経てさしてかわらない故郷の、素朴で美しい風景に逢いたくて、今もしばしば足を運びます。

6回の転職の後、総合広告代理店(株)アド・プロを開業。その今に至るまでの主な時間を「営業」という職で貫き、「営業は、天職」と、自身を語ります。そのなかで学んだことは数多く、なかでも2つ、今の自分を作っているものがあるといいます。

ひとつめは「納得できるだけの努力を精一杯すること」。「しまった、やっぱり行って、会って、きちんと話をすればよかった」という後悔だけはしたくない」と、岐阜県内のあらゆる地域へ自分の足で出かけ、自分の目で見て話して…まさに岐阜県内を「足で稼いで」網羅しました。

もうひとつは、「自分が扱っているものに心から惚れ込む」こと。「hitomi」も全編取材に裏付けされた生の情報で綴られています。

本物だから、惚れるんです。

その集大成が「hitomi」。実際目で見て、足で稼いで、話して…、そして得た情報が見惚れるほどの美しい画像とともに表現された「本物の岐阜県」が、ここにあります。

タイトル「hitomi」は、「**飛騨と美濃を、ひとつにつなぐ**」という想いが込められています。

石徹白で生まれ育ち、岐阜市で生き、ふるさと岐阜県を誇りに思う、上村さんの想いでもあります。



飛騨と美濃を愛する大人の情報誌「hitomi」プロデュース

上村孝成さん

(株)アド・プロ
〒500-8109 岐阜市朝日町1-2
Tel.058-263-5141 Fax.058-263-5140
アド・プロプロデュース「湯めぐり紀行」http://yu-meguri.jp

愛知県からの視線をターゲットに

販売では特に、愛知県のコンビニエンスストアでの扱いに力を入れました。全国的に日帰りもしくは一泊二日で出かけられる「近場の旅」が注目されている昨今、愛知県の方々にとって山紫水明の岐阜県エリアは、絶好の旅行スポット。そこに目を付け、愛知県から見た岐阜県の良さをアピールする視点にも力を入れました。

また、その視点で記事を掲載したところ、今度は飛騨地域の広告主から注目されるようになりました。「ある広告主から『うちは今まで関東・関西の情報誌に広告を載せて、年に1回くらい来てくれるお客様を狙っていたけれど、hitomiは本当にきれいに記事を載せてくれるから、愛知県から年に何度も来てくれる方もいる』と喜んでもらえました」

その「きれい」とは――
多くの雑誌は通常、1インチに180ピクセル(＝画素)。「hitomi」はグラビア並の高精細印刷を採用した300ピクセル。これがきれいの理由。

「hitomi」だから――
そんなお客様からの言葉が、上村さんの背を力強く押し続けます。

・・・・・・・・

上村孝成さん。
岐阜県郡上市白鳥町石徹白。当時、人口約